

**中高生の英語学習に関する  
実態調査2014  
—学習実態と学習への意識の  
関係性などを探る—**

工藤 洋路  
(玉川大学)

# 調査の背景

## 大規模調査

- 2008年「中学校英語に関する基本調査（教員調査）」
- 2009年「中学校英語に関する基本調査（生徒調査）」

## ヒアリング調査

- 2013年「中高生に対する聞き取り調査」

## 大規模調査

- 2014年「中高生の英語学習に関する実態調査2014」

## ヒアリング調査

- 2014年「中高教員に対する聞き取り調査」

## 大規模調査

- 2015年「中高の英語指導に関する実態調査2015」

# 調査の概要

- 「中高生の英語学習に関する実態調査2014」
- ベネッセ教育総合研究所
- 調査企画・分析メンバー
  - 根岸 雅史 (東京外国語大学)
  - 酒井 英樹 (信州大学)
  - 高木 亜希子 (青山学院大学)
  - 重松 靖 (国分寺市立第二中学校)
  - 工藤 洋路 (玉川大学)
  - 木村 治生 (ベネッセ教育総合研究所)
  - 加藤 由美子 (ベネッセ教育総合研究所)
  - 福本 優美子 (ベネッセ教育総合研究所)

# 調査の概要

- 調査テーマ
  - 中高生の英語学習の実態と意識に関する調査
- 調査方法
  - 郵送法による自記式質問紙調査
- 調査時期
  - 2014年3月
- 回答者
  - 中学1年生～高校3年生 6,294名
    - 中学1年 (1,057名) , 2年 (1,028名) , 3年 (996名)
    - 高校1年 (931名) , 2年 (790名) , 3年 (1,433名)
    - 不明 59名

# 質問の内容

- 中学校入学前の英語学習について（幼少期の英語体験・学び、小学校英語・小学校時の学校外学習の役立ち感）
- 現在の英語学習について（授業の理解度、授業における活動内容、先生の授業での英語使用、勉強時間、学校外学習、習い事、学校の授業の予習・復習）
- 英語学習に対する意識について（英語の好き・嫌い、つまずき、英語の学習観）
- 英語に関する意識や関わりについて（外国や英語との関わり、自主的に英語に触れる活動、英語の必要性、将来の英語使用に関する意識）

# 質問の具体例①

Q : 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

1. 単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く
2. 英文を日本語に訳す
3. 単語や英文を読んだり書いたりして覚える
4. 文法の問題を解く
5. 自分の気持ちや考えを英語で書く
6. 自分の気持ちや考えを英語で話す

「よくしている」「ときどきしている」「あまりしていない」「まったくしていない」

## 質問の具体例②

Q：英語の授業で、日本人の先生はどれくらい英語を使って授業を進めていますか。

「ほとんど使っていない」

「30%くらい」

「50%くらい」

「70%くらい」

「ほとんど英語で授業している」

# 質問の具体例③

Q : 英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

1. 単語を覚えるのが難しい
2. 文法が難しい
3. 英語の文を書くのが難しい
4. 英語の文を音読するのが難しい
5. 英語を話すのが難しい
6. 英語を聞き取るのが難しい

「とてもあてはまる」 「まああてはまる」

「あまりあてはまらない」 「まったくあてはまらない」

# 質問の具体例④

Q : あなたは、以下のことについてどう思いますか。

1. 英語が話せたらカッコいい
2. 外国の人と友だちになりたい
3. 外国の高校や大学に留学したい
4. 世界で活躍できる人になりたい
5. 日本の文化を外国の人に紹介したい
6. 英語を使って仕事をしたい

「とてもそう思う」

「まあそう思う」

「あまりそう思わない」

「まったくそう思わない」

速報版

# 中高生の 英語学習に関する 実態調査 2014

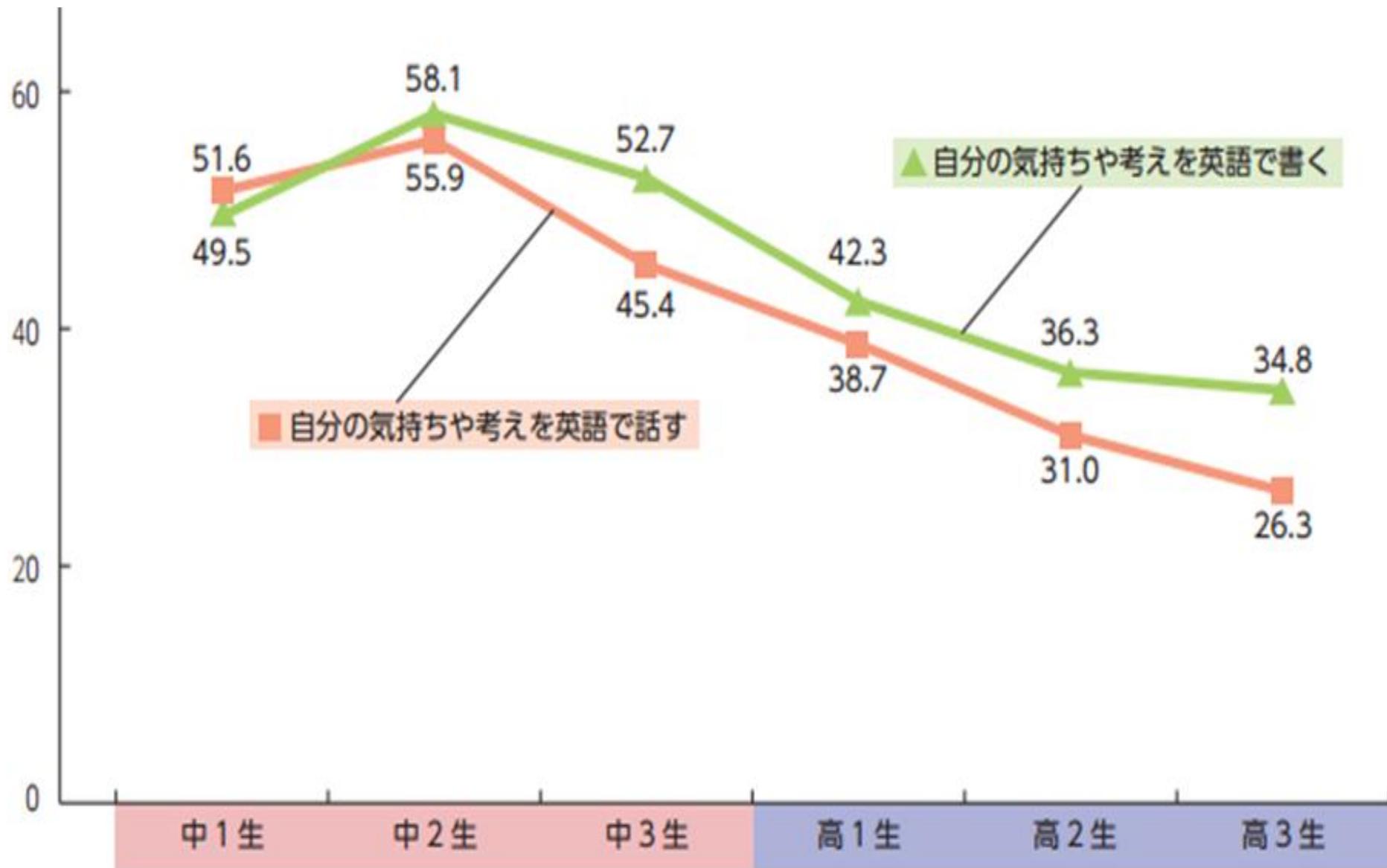
グローバル化の進展など社会の変化が進む中、小学校における英語教育の拡充強化、中高における英語による言語活動の高度化、大学入試の4技能化など英語教育改革の検討が進んでいます。ベネッセ教育総合研究所では、2014年3月に全国の中学1年生から高校3年生を対象に、英語学習の実態や意識に関する調査を実施しました。本調査は、「第1回中学校英語に関する基本調査（教員調査／生徒調査）」（2008、2009）、「中高生に対する聞き取り調査」（2013）の実施・分析による課題把握を経て、今回、子どもの実態や意識に深く切り込むことにより、改めて英語の指導と学習の課題を明らかにすることを目的としています。

## CONTENTS

調査概要	2
基本属性	2
調査の枠組み	2
「中高生に対する聞き取り調査」（2013） から見えてきたこと（一次分析）	3
1. 中学校入学前の英語学習	4
2. 現在の英語学習	6
3. 英語学習に対する意識	10
4. 英語に関する意識や関わり	12

# 結果の概要

<http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4356>



# 調査の方法

- ① 「中高生の英語学習に関する実態調査2014」で実施した質問項目のうち、中学1年生から高校3年生の6学年にわたって、回答傾向に多様性のあるものを選ぶ。
- ② その多様性が、他のどんな要因によるものなのかを検証するために、任意の2項目ごとのクロス集計を行い、その有意差をカイ二乗検定を用いて検証する。
- ③ クロス集計の結果から、選んだ2項目同士の関係性の有無を検証し、考察する。

# 本発表の焦点

## 学習実態

この関係性を検証

授業でたくさん書いている

授業の理解度は70%くらいだと思ふ

## 意識

将来英語を使いたい

文法は難しいと思ふ

授業は英語による授業

英語で話すのは得意



# 主な分析結果

## ① 「教師の英語使用度」 × 「文法」

文法が難しい	教師の授業における英語使用度		
	30%程度以下	50%程度	70%程度以上
あてはまる	72.2%	74.3%	73.1%
あてはまらない	26.8%	25.7%	26.9%

有意差なし

## ② 「教師の英語使用度」 × 「単語」

単語を覚えるのが難しい	教師の授業における英語使用度		
	30%程度以下	50%程度	70%程度以上
あてはまる	63.0%	64.4%	62.4%
あてはまらない	37.0%	35.6%	37.6%

有意差なし

### ③ 「教師の英語使用度」 × 「授業の理解度」

授業理解度	教師の授業における英語使用度		
	30%程度以下	50%程度	70%程度以上
70%程度以上	57.6%	57.6%	63.1%
50%程度以下	42.4%	42.4%	36.9%

有意差あり (1%)

### ④ 「教師の英語使用度」 × 「英語を話す・書く」

英語を話すのが 難しい	教師の授業における英語使用度		
	30%程度以下	50%程度	70%程度以上
あてはまる	67.8%	66.0%	57.4%
あてはまらない	32.2%	34.0%	42.6%

英語を書くのが 難しい	教師の授業における英語使用度		
	30%程度以下	50%程度	70%程度以上
あてはまる	74.1%	71.7%	67.2%
あてはまらない	25.9%	28.3%	32.8%

有意差あり (1%) 15

## ⑤ 「授業中の書く・話す」×「文法」

文法が難しい	授業中に 「自分の気持ちや考えを英語で書く」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	67.9%	78.4%
あてはまらない	32.1%	21.6%

有意差あり (1%)

文法が難しい	授業中に 「自分の気持ちや考えを英語で話す」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	69.3%	76.6%
あてはまらない	30.7%	23.4%

有意差あり (1%)

## ⑥ 「授業中の書く・話す」×「単語」

単語が難しい	授業中に 「自分の気持ちや考えを英語で書く」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	60.9%	78.4%
あてはまらない	32.1%	21.6%

有意差あり (1%)

単語が難しい	授業中に 「自分の気持ちや考えを英語で話す」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	59.3%	66.9%
あてはまらない	40.7%	33.1%

有意差あり (1%)

## ⑦ 「授業中の単語・文法」 × 「将来への意識」

英語を使って仕事をしたい	授業中に 「単語や英文を読んだり書いたりして覚える」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	87.5%	81.2%
あてはまらない	12.5%	18.8%

有意差あり (1%)

英語を使って仕事をしたい	授業中に 「文法の問題を解く」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	73.1%	62.2%
あてはまらない	26.9%	37.8%

有意差あり (1%)

## ⑧ 「授業中の書く・話す」 × 「将来への意識」

英語を使って仕事をしたい	授業中に 「自分の気持ちや考えを英語で書く」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	55.4%	40.3%
あてはまらない	44.6%	59.7%

有意差あり (1%)

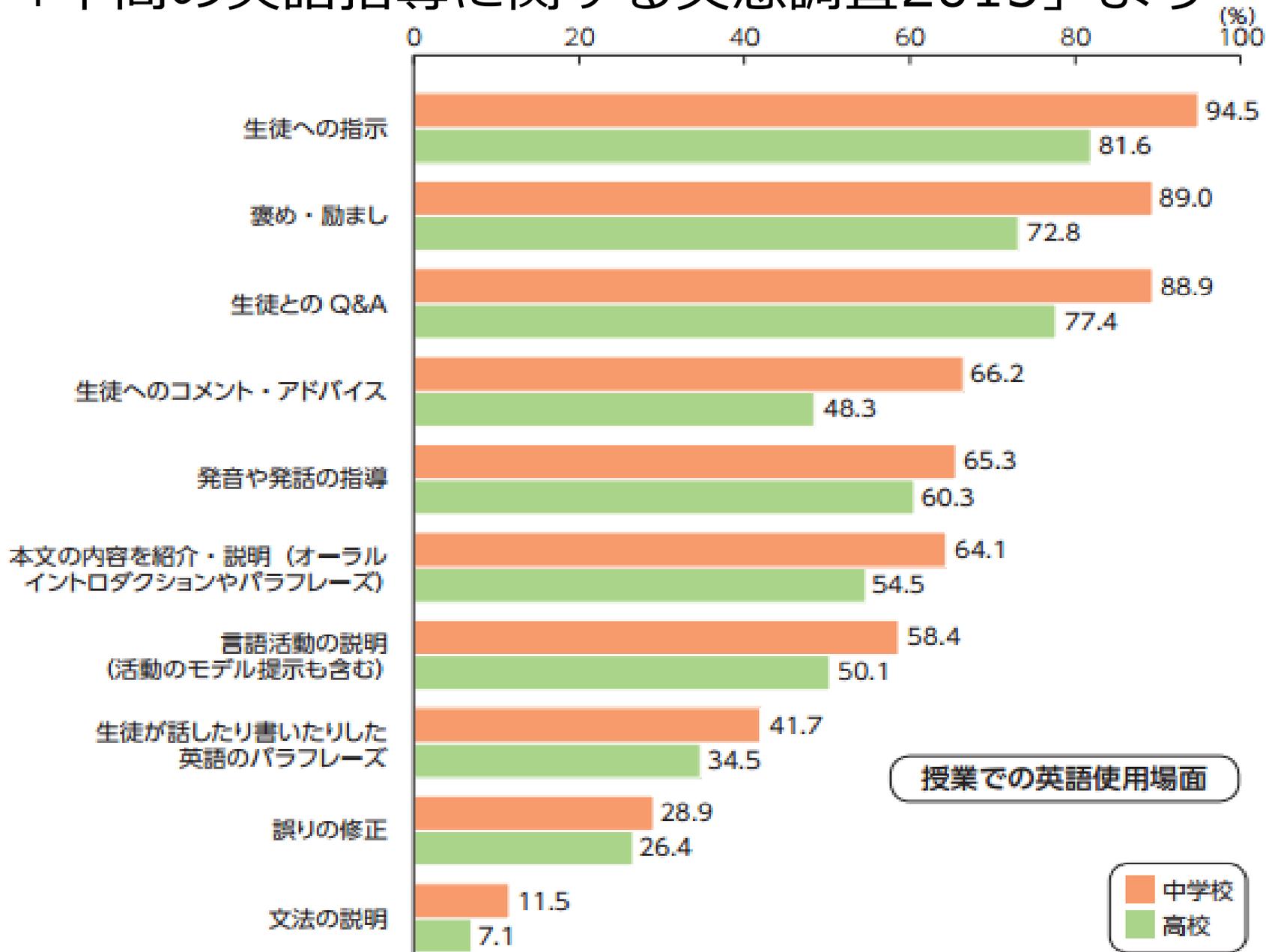
英語を使って仕事をしたい	授業中に 「自分の気持ちや考えを英語で話す」	
	よくする ときどきする	あまりしない まったくしない
あてはまる	50.1%	36.3%
あてはまらない	49.9%	63.7%

有意差あり (1%)

# 考察①

- 「教師の英語使用度」と「文法・単語が難しいという意識」の関係性は見られなかった。  
⇒ 「文法」「単語」の指導は英語では行っていないと考えられる。

# 「中高の英語指導に関する実態調査2015」より



# 考察①

- 「教師の英語使用度」と「文法・単語が難しいという意識」の関係性は見られなかった。
  - ⇒ 「文法」「単語」の指導は英語では行っていないと考えられる。
- 「教師の英語使用度」と「授業の理解度」に若干の比例関係が見られた。
  - ⇒ 授業を日本語で行ったからといって、必ずしも生徒の理解度が上がるとは限らないと言える。
- 「教師の英語使用度」が上がれば、「話す」「書く」ことが難しいと感じる割合が下がる。
  - ⇒ 教師の英語使用度が上がることは、言語活動の充実に繋がっているのかもしれない。

## 考察②

- 「授業中の話す・書く活動の頻度」が上がれば、「文法・単語が難しい」と感じる割合が下がる。
  - ⇒ 「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」（『中学校学習指導要領』）を実践する意義が認められる。
- 「授業中の単語や文法の学習」と「授業中の話す・書く活動」は、両方ともに、「将来、英語を使って仕事をしたい」という意識を高めるが、後者の方が、その割合が大きい。
  - ⇒ 「単語や文法」の学習と、「実際に、話したり、書いたりする」ことの両方を実践することの意義が認められる。

# 今後の課題

- 本調査によって、学習者の意識と学習実態（行動）の関係性の有無が一部判明したが、その**因果関係**は本調査からは明らかにできない。今後は、その因果関係を探る必要がある。
  - ⇒ 「意識が高いから行動をする」のか「行動をしているから意識が上がる（下がる）」のか
- 本調査では、2項目間の関係性を探ったが、学習者の意識や行動に影響を与える要因は様々なものが考えられる。今後は、**複数の項目の関係性や因果関係**を探る必要がある。
- 大規模データの特徴をより活かすために、「中高別」「能力別」など、より**詳細なカテゴリー**を設けて、同様の調査を行う意義がある。